

“おさかなの大切な命預かります！” —多摩川おさかなポスト探訪—

2 月度の見学会は「多摩川おさかなポスト」探訪となった。捨てられる魚の保護に取り組んでいるグループがあると聞いていたからである。2月12日(金)9時半、下堰近くのコンビニに集合し車に分乗して多摩区生田出張所を目指す。参加者は7名だった。代表の山崎さんが既に会議室で待っていて下さった。水産学科で学び、多摩川の魚類研究をライフワークとされているそうだ。挨拶も早々に説明に入った。パワーポイントを使った熱のこもった解説に引

き込まれ12時半過ぎまで時の経つのを忘れる程だった。要約すると次の通りであった。

○多摩川はかつて豊かな清流であった。首都圏の水瓶となり羽村堰で大半の水を取水されてしまい下流域の流量は激減する。更に流域の都市化により生活用水が流入して1970年代には魚の棲めない死の川になってしまった。

○全国的に環境問題への関心が高まり、都、市町村、市民団体が、協力して下水道の整

備に取り組む。その結果水質が画期的に改善されアユが遡上してくようになる。ちなみに現在は下流域の水の80%は下水道処理後の水で魚類の棲息には最適だそうだ。

○2012年には12百万のアユの大群の遡上を記録するに至った。水質の改善と魚道が整備された成果である。然し遡上したアユは回遊できず魚道の更なる改善が課題である。

○「おさかなポスト」のスタートは2005年、金魚の捨て場所に困り泣きながら土手を歩いてい



稲田公園のおさかなポストの前で、参加者と山崎代表(中段右)

たった男の子に会ったことが契機だった。預かり里親を探すことにした。

○多摩川には300種以上の外来種の魚類、爬虫類の外来種が投棄され棲息している。生態系に影響するばかりでなく、細菌、ウイルスによる汚染が懸念される。

○小・中学校への出前講座を積極的に行い「ペットを飼うなら最後まで責任を持つこと」を強調している。ちなみにカメは90年も生きるものもある。等々

車 で山崎さんのお宅兼事務所である建築技術研究所にうかがう。急勾配の斜面に添って幾棟もの建物が併行して建てられている。そこに折り重なるように水槽が設置され保護された様々な魚や亀が飼われていた。15Cm程もあるピラニアが遊泳していたのには驚いた。

「お さかなポスト」は京王線稲田堤駅の程近い稲田公園の一隅にあった。フェンスに囲まれコンクリートの水槽が幾つかに区(裏面へつづく)

子供が遊べるふるさとの川へ、自然豊かな川の散歩道に、きれいな川にしましょう！

切られ保護された魚や亀が飼われている。周囲には様々な熱帯魚が遊泳するガラスの水槽が積み重ねられまるで水族館のようだ。数組かの親子ずれが餌を与えていた。市民が気軽に訪れているようだ。山崎さんは「エサをありがとう！」と声をかける。餌代が毎日1万円もかかり馬鹿にならないようだ。

2

時過ぎ、行き届いた対応に感謝し辞去し、中之島駅近くの藍屋で遅い昼食をとる。

山崎さんは捨てられる魚を決して殺さないことを信条とされている。「在来種の命、外来種の命、重いのはどちら？ 大切な命あずかります」と云う言葉が心に残った。



多摩川に生息するタピラニア

教えられることの多い有意義な探索となった。
(文:山口 拓郎)

3月の清掃報告

3月13日(日)は今年初めての清掃日でした。24名が参加し、ゴミ29袋、スケートボード、傘、バイクの一部、衣装ケースなど沢山のゴミを回収しました。

まだ水が冷たく、小魚は見えませんが、河原には土筆が顔を出していました。この日は久しぶりにクレインライオンズクラブのメンバー9名にご参加いただいたほか、吉原都議の峰岸秘書や復帰された杉原会員など多くの方に参加頂きました。



クレインライオンズの皆さんと下堰親水にて

5月・6月の清掃(クリーン作戦)の予定

☆5月8日(日)、6月12日(日)

☆集合:9:30 下堰親水場

(能ヶ谷4丁目、魅力屋ラーメン店裏)

☆持物:軍手。その他ごみ袋、火ばさみや長靴など一部用意があります。

☆解散予定 11:00

真光寺川の川の中と川の周辺のゴミを分担して拾います。どなたでも参加できます。

ご一緒に川をきれいにしませんか

メダカポスト: お礼

2月~3月は一木会・見つめ会・めだかポストへのご寄付を合算し 4,345 円でした。

真光寺川を清流にする会の活動に対しお寄せいただいたご厚志に深く感謝いたします。



☆真光寺川を清流にする会 代表:山本隆治

事務局:黒田 TEL/FAX:708-4269

(ご意見・問合せは黒田までお寄せください)

☆真光寺川を清流にする会のHP

<http://www.shinkojigawa.com/>

e-mail: kawasemi@shinkojigawa.com

私たちの行動基準

1. 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
2. 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
3. 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。